

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	4	学校名	岐山高等学校
------	---	-----	--------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	高い進路目標の実現を目指す高校として 理数教育の本質である科学的なものの見方や考え方を働かせる探究的な学びを通して 身近な社会課題を解決する実行力のあるリーダーの育成を目指す学校		
学校教育目標 (教育方針)	教育基本法にのっとり、豊かな情操と強固な意志を備えた心身ともに健全な人物を育成するため、次の教育目標を定めてその実践を期する。 (1) 「躍進岐山」の意気と誇りをもて (2) 全力を尽くして学業に励め (3) 礼儀正しく思いやりのある人となれ (4) 強健な心身をつくれ 上記、教育目標の達成を目指すとともに、理数科設置校としての本校に課せられた社会的使命や、生徒全員が進学を志していることに鑑み、 その自己実現を図るよう、創造性に富んだ明るく活力ある学校づくりに努める。		
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	1. 科学的な考え方と手法を身に付け、主体的・論理的に課題解決ができる生徒 2. 他者を尊重し、協働しながら、様々な事柄に柔軟な対応ができる生徒 3. 社会の一員としての自覚と責任をもち、地域や社会に貢献できる生徒	
	生徒をどう 育てるか 【CP】	1. 物事を科学的な視点で考察・判断・表現する力を育成するための授業実践 2. 自己理解を深めるとともに、他者を尊重し、多様な価値観を受容する心の醸成 3. 探究的な活動を通して社会課題に目を向け、自らの思考を深める学びの推進	
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	【普通科・理数科共通】 1. 本校のグラデュエーション・ポリシーを理解し、高い進路目標に向かって意欲的に学業に取り組む生徒 2. 思いやりをもって、他者と協働できる生徒 3. 社会課題に興味・関心を持っている生徒 【理数科】 ・理数科目に興味・関心があり、理数系への進路を希望する生徒	
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・真面目でおとなしい生徒が多く、コミュニケーション能力の拙さがあり、対話を重視した授業や活動を通じ、相手を思いやる力や自己表現力を育成すること。</li> <li>・効率的な教育実践や業務軽減のために、AIやICTを活用した授業実践やデジタル教材の十分な活用による、学習効果の向上や業務の効率化。</li> <li>・物事を自分事としてとらえられず、主体的に問題の解決に取り組もうとする姿勢に欠ける生徒もいる。</li> <li>・幅広い知識を習得する意欲に乏しく、習得後もそれらを活用し社会課題に立ち向かうための課題設定力や課題解決力に乏しい。</li> </ul>		
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標	
	学習指導	ICT機器・AIを活用した効率的な授業研究・授業実践を行う。 生徒が自主的に学ぶことのできる授業の実践を行う。	
	進路指導	社会の変化に気づき、現在の社会課題を意識し、それらを解決するための方策を調査する中で、自分の進路と関連付けて考えるための支援を行う。 学習の取り組みと成績の自己分析、目標設定と到達に向けての実践のため、適切な情報提供による進路支援を行う。	
	生徒指導	職員が生徒の情報を共有し、学年や全校が統一感をもって指導にあたる意識の徹底をする。 主体性をもって行動できる姿勢の育成と、自立のための支援を行う	
	特別活動	生徒会活動やHR活動の活性化を図り、生徒の自主性や協働する力を育成する。 物事を自分事としてとらえ学習活動と同様に主体的に行動できる姿勢の育成を目指した部活動を実施し、学業との両立を図る。	

年度目標			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標
学習指導	学習の到達度に応じた指導を組織的に行い、応用力・実践力を育成して学力の伸長を目指す指導を行う。	施策Ⅱ-8	CMシートの振り返り
	目的に応じた課題の提示による学力向上と多様な評価方法の研究を行う。	施策Ⅱ-8	週末課題、定期考査結果、教科会
	教科指導力向上のための相互授業見学の実施やユニバーサルデザインを意識した提示、掲示の実践研究を行う。	施策Ⅳ-26	授業研究の振り返り
	探究的な活動による教科横断的な取り組みから論理的思考力やプレゼンテーション能力を養います。	施策Ⅱ-9	生徒自己評価
進路指導	探究を中心に将来を考える機会を増やし、実現に向けて積極的に取り組めるよう様々な場面で啓発する。	施策Ⅱ-13	実施後アンケート
	進路講演会、リサーチゼミ、LHRなどにより、進路の意識づけをし、広い分野の研究に興味をもてる環境を整える。	施策Ⅱ-10	進路希望調査
	外部機関と連携して視野や価値観を広げ、自己の将来や社会との関わりを考える取組を実施する。	施策Ⅰ-7	リサーチゼミ企画数と自己評価
	大学情報、学部・学科情報の収集と模試結果などのデータを分析・活用した進路指導による目標設定を支援する。	施策Ⅱ-13	進路希望調査や面談
生徒指導	人権教育に関する講話等を通じて、人権の大切さを理解させ、すべての命の尊さを認識させる。	施策Ⅰ-2	講話の実施
	年齢や背景が異なる生徒や教員等と意見を交わす機会を設定し、コミュニケーションスキルの向上を図る。	施策Ⅰ-1	生徒や保護者との対話の機会の提供と実施
	学校行事や学校生活を通して、仲間と関わりながら自己成長できるよう支援する。	施策Ⅰ-1	面談や各種アンケート
	LHRや学年集会などを通して、生徒の規範意識を高め、基本的生活習慣の質的向上を目指す。	施策Ⅰ-1	面談や各種アンケート
特別活動	生徒が自ら考え、学校の諸活動に積極的に参画できるよう、生徒会や委員会との連携を強化する。	施策Ⅰ-1	生徒会活動実績
	各行事が円滑に実施できるよう、先を見通して、計画的な準備と運営を行う。	施策Ⅰ-1	特別活動部の年間計画、年間の振り返り
	集団での活動を通して、仲間意識を高め、集団に貢献しようとする態度を育てる。	施策Ⅰ-1	生徒アンケート、面談
	適切に休養日を設けるとともに、定められた時間内で最大限の効果が上がるよう内容を検討する。	施策Ⅲ-16	練習計画、活動実績、面談や各種アンケート

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和8年1月21日

<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者・家庭との連携強化。来校機会や授業公開の充実などを通じて情報提供を工夫し、学校・家庭間の信頼関係をさらに深める。</li> <li>・進路目標を軸にした学力向上と指導改善。出口（進路）を見据えた指導を学校全体で推進し、生徒の進路目標と結びつけて学習意欲と授業の質を高める。</li> <li>・授業公開を活用した授業力向上。授業研究週間やふるさと教育週間を活かし、教員同士が学び合いながら指導力の向上を図る。</li> <li>・教職員間の情報共有と組織的支援の充実。校内での情報共有を一層進め、生徒一人ひとりに対して多角的かつきめ細かな支援を行う。</li> </ul>
---

年度末評価(自己評価)			
取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D
<ul style="list-style-type: none"> <li>・CMシートの作成を5教科に広げた。</li> <li>・週末課題については、基本的に全ての週において提示された。</li> <li>・高校教育課訪問において数学、理科では研究授業、教科研究会を実施していただいた。</li> <li>・普通科は進路支援部、学年、情報科と連携して、1、2年生を通じたカリキュラム整備に取り組んだ。理数科は理科、数学とルーブリックの見直しを行うと共に情報科及び外部連携によるプログラミング講座を実施した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○週末課題の集約と提示による可視化が一層進められた。</li> <li>○CMシートの作成を通して、学習指導の見通しを明らかにすることができた。</li> <li>○教科内での指導方法の研究が深められた。</li> <li>○理数科の探究の諸行事運営を円滑に行うことができた。普通科1年の探究において情報Ⅰと連携しICT機器の操作を学ぶ時間を設定した。</li> <li>▲CMシートの更なる有効活用を図る。</li> <li>▲学習評価についての方法や妥当性などの継続的な研究や検証が必要である。</li> <li>▲普通科2年生の探究におけるさらなる支援体制の整備が必要である。</li> </ul>	A. B. C. D
<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究に各テーマに対する発表の後、自身の進路に繋がる進路研究の時間を確保した。</li> <li>・生徒企画も含めたりサーチゼミを7件実施。</li> <li>・自然科学部を中心に外部発表も積極的に参加。岐阜科学塾での中学生対象講座のほか、化学講座と生物講座がそれぞれ全国規模、東海規模の学会・コンテストで優秀な成績を上げた。</li> <li>・大学調べを行う中で、長期休みを利用した大学見学等を奨励し、1年次からの進路意識の向上を図った。進路目標の決定や短期目標の設定を考えた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒企画・運営によるリサーチゼミを2年生の普通科・理数科の探究活動の一環として実施することができた。</li> <li>○外部機関（岐阜大学等）との連携による連続講座を看護分野やプログラミング分野で実施することができた。</li> <li>▲探究活動を教科の学びとの接続や進路意識の向上には十分に結びつける必要がある。</li> <li>▲12月に行った進路講話は、多くの生徒が前向きに動き出す大きなきっかけとなった。講話に限らず、このような機会を設けることの重要性を改めて感じた。</li> </ul>	B
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒間の人間関係トラブル等について、多くの職員と連携を図って早期の解決を心がけた。</li> <li>・ネットに関する講話を6月、ひびきあいの日を12月に全生徒を対象に実施。</li> <li>・全校集会に限らず、日頃から他人を思いやる言動について、教育相談を中心に伝えている。</li> <li>・羅進岐山みんなの会を4月、3月に実施。全校生徒が学年の枠を超え意見交流を実施し、立場の異なる人同士で議論を交わせた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学年会や文書共有ファイルを活用し、職員間で生徒に関する情報を定期的に共有した。</li> <li>○生徒支援部、教育相談係と連携し、学校生活に不安を抱える生徒のケアを行った。</li> <li>○人権を考えるきっかけになり、コミュニケーションの大切さを知ることにも繋がった。</li> <li>○様々な人との交流から、自身の意見を大切に持ちながらも、他の意見を尊重する資質の向上を図ることができたと思われる。</li> <li>▲保護者や地域住民を交えた直接対話の機会が設定できるとよい。</li> </ul>	B
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会役員がその主催行事の計画と運営に責任を持ち、教員からの助言を受けながら、その責務をよく果たした。</li> <li>・職員会議の日程を確認しながら、各会議での提案内容を整理し、計画的に準備・運営を進めることができた。</li> <li>・教員・生徒それぞれから得た反省をもとに取り組みを進めることができた。</li> <li>・部活動ガイドラインを元に年間計画と月間計画を立て、学習活動との両立ができるよう、適切に休業日を設けた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文化祭時に近隣の飲食店との連携企画をはじめ、地域との関わりを意識した活動など、諸活動への取り組みを通して、生徒会役員をはじめ多くの生徒に自身が主体であるという意識が芽生え始めていると感じられる。</li> <li>○生徒が先を見据え、想像力を働かせ様々な状況を想定した準備や運営に臨むことができた。</li> <li>○部活動では学業との両立を念頭に置きつつ、効果的な活動内容を考え実践したことで、多くの部活動で大会や発表会で優秀な成績を収め、東海大会や全国大会への出場を果たした。</li> <li>▲生徒会と各種委員会との連携を、より一層強化していきたい。</li> </ul>	A. B. C. D

学校関係者評価

実施日：令和8年2月9日

<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生に対するアピールにおいて好評な部分はどこだったのか、アンケート等を実施・分析することで、これからも地域に根差した高校としての活躍を期待している。</li> <li>・探究が進路支援部と探究部で連携して進めているのは大変良いと感じる。これから大学も生徒の探究に係る能力を重要視していく。一方で、探究での内容と教科の内容とをどう結びつけられるのかが課題である。教科と探究の学びが結びついてくると進路へつながり、学びの深さにもつながる。</li> <li>・AI活用については、論文の世界でも剽窃チェックにAIを活用している。AIは便利であるが、やはりモノづくりにはコミュニケーションが必須であり、探究発表会では生徒のやりとりの中に役割分担や連携が見られ大変良かった。</li> </ul>
---